MARCH 2014

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
NEWS LETTER
Documentation No.17
ドキュメンテーション

卒業生の皆さん

■ 創立１０年目の卒業生の門出を祝して！

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ドキュメンテーション学科の７期生が卒業する季節を迎えました。皆さんにとって鶴見大学での学生生活は、充実した大切な時間であり、様々な思い出が皆さんの人生に新たなページを刻んだことと思います。入学してすぐに貸与されたパソコンを返却する時、学生生活の大事な相棒との別れはいかがでしたでしょうか。最初は苦労していたパソコン操作も、卒論を仕上げた頃には自由自在となったことでしょう。４年間に学修した知識や技術を、これからの仕事や生活で是非活かしていただきたいと思います。

この４年間には、社会的にも大きな出来事がありました。最大の出来事は、皆さんが１年生を終わろうとしていた春休みの２０１１年３月１１日に起きた東日本大震災であると思います。マグニチュード９．０という未曾有の地震は、津波や原発問題も含め、未だに解決できない多くの問題を抱えています。

ドキュメンテーション学科では、国際交流が大きく進展しました。２０１１年に台湾の世新大学情報コミュニケーション学科と、２０１３年に中国の北京大学情報管理学科、中国中山大学情報管理学部とそれぞれ国際交流姉妹校提携を締結しました。学生達が相互に国際インターンシップを交わすことができるようになりました。その内容については、No. １４、No. １６および本号でお知らせしているとおりです。また、昨年１２月には図書館や情報に関する国際会議（ＩＣＰＥ２０１３）を本学で開催しました。海外の学生さんとの異文化交流は、皆さんの将来にとって大変有意義で価値ある体験となるでしょう。

さて、ドキュメンテーション学科が創立して１０年が経ちました。この１０年間に入学した学生数は７５６名になりますが、卒業生は社会人として様々な方面で活躍しています。その様子は、ドキュメンテーション学科ホームページの学科紹介ビデオでもその一端が紹介されています。卒業生が大学を訪ねてくださることも度々あり、在学生との交流できる機会を今以上に盛んになるようにしていきたいと思います。２０１４年１１月２９日(土)には、ドキュメンテーション学科創立１０周年記念講演会と祝賀会を開催する予定です。大勢の方の参加をお待ちしています。

日本で初めてのドキュメンテーション学科という名称も、この１０年で少しずつ高校生にも浸透し、その教育や研究、活動に対して一定の評価をいただいています。この節目に、これからの１０年に向かって、卒業生、在学生、そして教員一同が新たな一歩に向かって躍進していけるよう頑張っていきたいと思います。

ドキュメンテーション学科 主任
原田 智子 Tomoko Harada

平成 25 年度　卒業論文題目

長塚隆研究室

金子　貴大　大学野球のスコアデータの分析
川島　俊郎　クラウドシステムに関する著作権上の問題点の分析
河野　裕樹　東急多摩川線沿線の駅前店舗についての比較調査
舘野　　翔　野球のサード守備に関するW eb 教材と問題集の作成
趙　　英学　Wayback Machine を使った野球情報の解析
火爪　健太　富山市の観光データベース作成
前田　　源　検索エンジンにおける画像検索機能の比較研究
松本　航平　学生のスマートフォン・携帯電話の利用動向と分析
丸山　理恵　電子書籍の比較
森　明日美　違法ダウンロード刑罰化に対する認知度と Web 教材の作成
山元　美菊　スマートフォンにおけるネイティブアプリケーションの特長と解析

原田智子研究室

相川　奈美　レファレンス協同データベースの言語カテゴリーにおける
　　レファレンス事例の内容分析
大川　あい　大学図書館における Web サイトの調査　―鶴見大学と他大学との比較―
大西　志朋　大学生アンケート調査からみた小学校・中学校・高等学校における
　　学校図書館サービス
熊谷　優希　『AERA』に掲載された図書館に関する記事の調査・分析
佐藤　敦大　年次報告書に基づく鶴見大学図書館に関する分析と傾向
須田早紀子　朝日新聞に掲載された電子書籍に関する記事の分析
竹川　恵加　大震災が図書館に及ぼした影響と対策
竹中　　彩　平塚市立小学校に勤務する学校司書の仕事内容に関する現状調査
萩原千代恵　大学図書館における Twitter の現状と内容分析
水島　愛子　大学図書館における学生選書の比較分析

角田裕之研究室

遠藤　大作　指導法の研究　―青少年における野球道の再定義―
大西　翔太　索引から見る妖怪と人の心
金丸　早希　ジェンダー資料の図書館での扱いに関する研究　―BL 小説における腐女子が好む属性の傾向の調査を通して―
小関　健夫　ライトノベルのメディア展開の研究
高橋　辰実　総合索引の研究
東城　翔太　公共図書館の指定管理者制度における図書館サービスの変化の研究
本多　　翔　計量学におけるリファレンス文献数の変化に基づく傾向の研究
森田　尭宏　視聴覚資料のための新しい基本件名標目表の研究　―鶴見大学図書館が所蔵する視聴覚資料において―
渡辺　碩一　メディア文化の経済効果とメディアの保存の研究

久保木秀夫研究室

今井悠有里　冷泉家時雨亭文庫本の書型・書式に関する調査・研究
大塚　祐貴　鶴見大学図書館蔵『百人一首』伝烏飼宗清筆本の調査・研究
岡本　　望　『詞花和歌集』古写本の調査・研究　―鶴見大学図書館本を中心に―
荻久保加奈　日本昔話の比較研究　―「桃太郎」と「舌切り雀」―
神田　朱香　怪異に関する江戸時代画図の比較研究
佐藤　里菜　日本と西洋との色文様装飾に関する比較研究
―1900 年前後を中心とする―
藤曲　史穏　国立国会図書館蔵「関ヶ原合戦絵巻」の場面に関する研究

伊倉史人研究室

有野　瑞霞　絵巻の電子化による着色復元と考察
石井　洋平　旧字体から新字体への変遷
遠藤　貴浩　ちりめん本から岩谷小波の日本昔噺へ
太田　瑞生　「鎌倉名所記」諸本の比較と考察
小澤　亮介　小泉八雲の『怪談』と原話の比較及び研究
加藤　由華　百人一首における本文異同の比較及び研究
川俣　綾香　仮名の字体の変容　―現行仮名に至るまで―
佐々木遥香　ピーターラビットの翻訳の研究
中川　　舞　源氏物語かるたの研究

元木章博研究室

石田　香奈　国立大学法人図書館における付録付き図書の所蔵調査
井上　　優　日米の科学館における Web アクセシビリティの比較調査
大高　一輝　公共図書館の Web ページにおける障害者向けサービスの
評価基準策定と調査
大出さつき　都道府県立図書館における付録付き図書の所蔵調査
鈴木　悠里　経年的変化から見た都道府県立図書館における Web アクセシビリティ
滝沢　七恵　研究室内蔵書検索・貸借管理システムにおける書誌登録機能の開発と評価
徳永　真大　ディズニー作品における翻案の傾向に関する調査
―原作から映画作品へ―
戸倉　一優　3DCG を用いた点字学習支援システムの開発と評価
―点字の直感的理解に向けて―
野口　和希　マルチモーダル絵本の製作
―利用者を問わない絵本の提供に向けて―
野澤　志織　フィッシング詐欺に関する教材の開発と評価
―Twitter で発生している手口を模倣した擬似体験学習―
橋本　貴行　マンガ「ドラゴンボール」におけるオノマトペの調査
―経年的変化から見る使用傾向―
細間　　萌　公共図書館における「さわる絵本」の所蔵調査
渡邉　優太　3D モデリング初学者向け VRML 学習教材の開発と評価

角田裕之研究室

先生との距離も近く気を楽にして居られる和気あいあいとした研究室です。テーマはこの学科らしい方法で研究し結果を導き出せればどんなものでもよく、自分の興味のあることをとことん研究できます。先生も支援してくれるので自分らしい研究を楽しく進められます。収集した情報を多面的に分析する方法を教わり、考察の未熟な点のフォローも受けられます。堅苦しさのない自由な研究室で、自分だけの研究アプローチを見つけてはいかがでしょうか。（東條翔太）

原田智子研究室

原田研究室では、図書館に関する調査や分析を主に行っています。まずは研究テーマの決定を目標に、3年生の春休みから活動を開始します。序論や目次など個別に提出が求められるため、計画的に進めることが可能です。また、論文の書き方などとても細かく指導していただき、就職活動に関しても気軽に相談に乗ってくださいます。夏休みには角田研究室と一緒に草津へゼミ合宿にいき、中間発表と名所を訪ね、皆の懇親を深めることができました。（大川あい）

長塚隆研究室

夏までは就職活動に追われ、冬は卒業論文の執筆で手一杯で、一番忙しく感じた1年でした。反面、一番熱心に勉強した1年間にもなりました。自ら設定したテーマの文献を漁り、インターネットに潜り、時には悩み、サボり、最後は無事論文を提出できました。締切寸前まで難航しましたが、自分なりの結論を導き出せた時の達成感は忘れられません。卒業が近づき「もっと勉強しておけばよかった」と感じています。それに気付くことが出来ただけでも、有意義な一年間だったと思います。（山元美菊）

大矢一志研究室

結果のみが評価されることの厳しさ、そこから学ぶ責任感と自己管理の方法、そして最後には厳しい環境を乗り越えたことで得られる達成感や充実感を知ることができる研究室です。もちろん、そんな大変な生活を送る中では、楽しみや何か救いがないと最後まで持ちません。遊びやお酒に頼ることも出来ますが、仕事をすることそのものに楽しみを見いだすことが出来るようになることが理想です。「楽しんで学ぶ」の本当の意味を学ぶことが、研究室の目標になっています。

元木章博研究室

元木研究室では、開発組、授業組、調査組にわかれ、それぞれの分野で、点字やアクセシビリティ（←何の？：伊倉）など様々なことを研究テーマにしています。比較的早くから、長期間研究室生として動き、やりたいことをじっくりと研究できます。また、合宿や発表会などでOB・OGの先輩からいろいろなアドバイスを受けるチャンスもあります。研究以外でもスケジュール管理の大事さ、失敗することの意味、人間関係など、いろいろなことを学べます。（戸倉一優）

伊倉史人研究室

有名な百人一首でもテキストによって本文に揺れがあります。私はそうした違いが生じる原因を考察しました。図書館に籠もって資料を作成し、ゼミで発表して仲間から意見をもらいました。即答できない質問も多かったですが、とても参考になりました。質問する側に立った時には、為になる質問をしようと頭を悩ませました。夏には久保木ゼミと名古屋へ合同合宿に行きました。蓬左文庫、熱田神宮など歴史の学べる場所をまわり、親睦を深めました。（加藤由華）

久保木秀夫研究室

久保木ゼミは書誌学のゼミで、主に明治時代以前の写本を取り扱います。写本以外にも装飾料紙や妖怪画などを研究する人もおり、研究のテーマは幅広いです。定期的にゼミ内での発表や先生との面談があり、丁寧なアドバイスをいただけるため、研究の進め方や問題点が把握しやすいと思います。テーマにもよりますが、翻刻や校合など地味で根気の要る作業を長期間続けていくことが多いため、計画的に作業を進めていくことや忍耐力が大切になります。（岡本望）

平成 25 年度　研究室紹介

No.7

【臺北市立圖書館 北投分館〔台北、台湾〕】

Taipei Public Library Beitou Branch, Taipei, Taiwan, P.R. China

台北市の中心部から北に延びる MRT 淡水線の北投駅から新北投支線に乗り換えて一駅、新北投駅の改札を抜けると目前に緑豊かな北投公園が広がる。我々一行は特別実習の授業で台湾に来た。特別実習とは姉妹校の世新大学（台湾）との提携プログラムであり、平成 23 年度から開始された。ドキュメンテーション学科教員の指導のもと姉妹校の大学で学び、海外の図書館や博物館などの実地見学をする授業である。

台北市立図書館北投分館前にて

今回訪れたのは台北市立図書館北投分館で、北投公園の中心に位置する。図書館は地上 2 階、地下 1 階建で、鉄骨構造であるが外装と内装が木で覆われており、園内の樹木と一体化している。ウッドデッキで囲まれた外観は巨大な木造船をイメージしている。図書館の屋根は左の船首から右の船尾にかけて緩やか傾斜がついており、雨水を効率よく貯水槽に導く。水道の使用量をなるべく減らすための雨水リサイクルシステムがある。また、図書館で使用する電気の一部を賄うソーラパネルが屋上には設置されている。さらに、屋上は植樹され夏の暑さから市民と資料を優しく守ってくれる。館内は総面積が 650 坪とそれほど広くないが木製の書架の高さは 110cm 以下と低く、視野が遮られないため、実際より広く感じられる。天井まで開口された大きな窓から木洩れ陽が館内の隅々まで届き、床や壁、ベンチや手すりも木製でとても落ち着く。景色のよい窓に面したベンチに腰かけて読書を楽しむ多くの利用者がいる。勿論、図書や雑誌のほかに児童書のコーナーやパソコンのコーナーもある。

木造船を思わせるウッドデッキ

今回の一品は、階段である。なぜ図書館の紹介に階段なのであろうか。実はこの階段、左右の段差が異なる。右側は通常の段差、左側は倍の段差がある。当然、倍の段差を歩く人はいないので、ここに居てもだれも文句を言わない。階段に座り込み上段を机代わりにする子供たちに大人気である。大人が腰かけるとちょうど段差が椅子の高さになり、階段で読書という風変わりな光景となる。

階段

日本にも多くの図書館があるが、これほど自然に溶け込み、遊び心がある図書館はめずらしいであろう。台湾に行かれた際は、北投分館を訪ねることをお勧めする。きっと心安らぐ一時となるであろう。　（角田裕之）

アクセス：新北投駅徒歩 5 分
開館時間：火曜日～土曜日　8:30-21:00、日曜日・月曜日　9:00-1700、祝祭日と毎月第 1 木曜日は休館
アドレス：台北市北投区光明路 251 号
http://japanese.tpml.edu.tw/

No.8

【フィレンツェ国立中央図書館〔フィレンツェ、イタリア〕】

Biblioteca Nazionale Centrale di Firenze, Firenze, Italy

フィレンツェ国立中央図書館

花の都フィレンツェを流れるアルノ川を、中世から残るヴェッキオ橋から川上に向かい 5 分程歩くと、イタリアにある 2 つの国立中央図書館のひとつフィレンツェ館がある。ルネッサンスの中心都市であり、かつてはイタリアの首都でもあったフィレンツェには、世界が認める文化資産が集まっている。ダ・ヴィンチ、ボッティチェッリ、ミケランジェロ、ラファエロなど、美術の教科書に出ていた画家の作品もフィレンツェに集まっている。

1966 年、街を流れるアルノ川が氾濫し、このフィレンツェ国立中央図書館も 1 階がほぼ水没してしまった。大切にしまわれていた貴重書は地下の書庫にあり、その全てが水没、水と泥で壊滅的な被害を受けた。インクは滲んだり、流れて消えてしまう。紙は溶けてしまったものもある。泥で固められた本を、一冊づつ手ですくい上げたそうだ。どれだけ悲しい光景であったのだろう。修復作業は今も続いている。

水位を記録するプレート（扉の右上）

現在、貴重書は上層の階に移され、閲覧は殆ど許されていない。フィレンツェ大学の先生ですら、明確な研究目的がない限り閲覧は許されず、閲覧する時も拳銃を持った警備員と司書が付ききりとのこと。

館内は、図書カードの部屋と閲覧の部屋に分けられている。面白いことに、図書カードは今でも現役で使われている。図書カードも全て水没してしまい、読めるものはコピーをして貼り付け、読めないものは書き直し、溶けてしまったものは作り直した。元の図書カードは、手書きで、しかも筆記体で書かれたものが殆どであることから、コンピュータの入力時に綴りを間違うことがあり、検索して結果がないと必ず図書カードにあたるとのこと。

中庭

今回の一品は、館内が全て撮影禁止であったにもかかわらず、何故か撮影が許可された中庭である。一般の人は見ることができない。中庭の奥にはサンタ・クローチェ聖堂が写っている。

現在、イタリアの国立図書館の機能は、ローマにある中央図書館にシフトしているようで、例えば Google の電子化プロジェクトなどもローマ館で行われている。

（大矢一志）

アクセス：ヴェッキオ橋またはウフィツィ美術館から歩いてすぐ。狭い街なので迷うことはない。18 歳以上であれば入館可能。
開館時間：月曜日～金曜日　8:15-19:00、土曜日　8:15-13:30、日曜日は閉館
アドレス：Biblioteca Nazionale Centrale di Firenze Piazza dei Cavalleggeri, 1, 50122 Firenze
http://www.bncf.firenze.sbn.it/

国際会議・国際インターンシップ

図書館や情報に関する国際会議（ICPE2013）を鶴見大学で開催

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科と海外の姉妹校（北京大学情報管理学科、中国中山大学情報管理学部、世新大学情報コミュニケーション学科（台湾）を中心とする図書館や情報に関連する広範な領域をカバーする国際会議「図書館・情報管理・知的財産・情報倫理」（ICPE2013）が、記念館を会場に 12 月 6 日（金）－ 7 日（土）の 2 日間にわたり開催され、海外 50 名、国内 160 名、合計 200 名以上の参加がありました。

国際会議（ICPE2013）は、鶴見大学創立 50 周年・短期大学部創立 60 周年記念事業として、国際交流センター、文学部国際交流委員会の支援・協力のもと全学的な連携の下で実施されました。

国際会議には、米国、トルコ、南アフリカ、中国、台湾など海外から 20 名の大学教員と大学院生・学生 28 名、合計 48 名が参加し、口頭発表（英語）24 件、ポスター発表 26 件、合計 50 件の研究発表が行われました。各研究発表セッションの司会は、国内の関連分野の他大学教員にも担当頂き、活発な質疑が交わされました。

本学ドキュメンテーション学科の 4 年生 2 名を含む大学院生・学部生による 26 件のポスター発表が同時に開催されました。大学院生・学生は、 1 分間の口頭発表も行いました。優秀なポスター発表学生に与えられる「Best Poster Presentation Award（ICPE2013）」受賞者が、国際会議（ICPE2013）の参加者全員の投票により選出され、北京大学、中山大学、世新大学、鶴見大学の大学院生あるいは学部生各 1 名に授与されました。鶴見大学からは、ドキュメンテーション学科 4 年生　野口和希さんが、「Effects of sound commentary on pictures and figures in digital talking picture books」のタイトルで発表し、受賞しました。

中国・北京大学・中山大学、台湾・世新大学から 28 名の国際インターンシップ学生を受入

文学部ドキュメンテーション学科が国際交流協定を締結する姉妹校・北京大学（7 名）、中山大学（10 名）、台湾・世新大学（11 名）合計 28 名の大学院生・学生を、11 月 25 日（月）から 12 月 9 日（月）の 2 週間、国際インターンシップ学生として受け入れ、学内外で研修が行われました。学生は、鶴見大学のゲストハウスに宿泊しました。

最初の 1 週間は、ドキュメンテーション学科の学生と一緒に英語で行われた図書館学、情報学さらに書誌学の専門の授業を受け、学ぶと同時に本学の学生との交流を深めました。また、半日ずつ 2 日間にわたり、本学図書館で長谷川事務長を初め図書館スタッフによる説明と業務体験が実施されました。

２週目は、川崎市立中原図書館、横浜市立中央図書館、海洋研究開発機構の地球シミュレータ、国立国会図書館、慶應義塾大学図書館・附属研究所斯道文庫、紀伊國屋書店など学外の施設の見学と体験研修が行われました。後半の金曜日・土曜日は、鶴見大学記念館で開催された姉妹校を中心とする国際会議（ICPE2013）に参加しました。国際インターンシップ学生は全員が、ポスター発表あるいは口頭発表を行いました。

学生の声

コース選択

コース選択に迷う

Maaya Miura　三浦 蒔紋

私は、図書館学コースと書誌学コースで迷っています。

大学に入学した時点では、図書館学コースを選択しようと考えていました。しかし、1年次に書誌学関連の授業を受け、書誌学コースにも興味を持ちました。

私は図書館司書資格の取得を目指しています。幼い頃から本が好きで、図書館にも頻繁に通っていることからです。図書館は、小さな子供からお年寄りまで、その地域の様々な人が利用しています。多くの利用者の方々に対し、行き届いたサービスを提供できる司書になりたいと思っています。その思いから、図書館学コースに進むことを考えていました。

一方、私は司書資格に加えて、学芸員資格の取得も目指しています。それは、鶴見大学に入学して、図書館によっては貴重書を扱うことを知り、学芸員過程で学ぶ事柄も役に立つと思ったことがきっかけでした。

学芸員過程では、資料の扱い方や有効な展示の方法について学びました。その中で、資料について、他人に伝えるためには、その資料自体について、詳しく知っておく必要があると感じました。

古い書物には、様々な特徴があります。書誌学コースで学ぶような、それらの書物がどのような情報を伝えているのか。また、その書物と情報を後世に伝えていくにはどのような方法があるのか等、調査、保存、伝達について興味があります。

3年次のコース選択に向けて、学んできたことや現在学んでいる内容から、自分に合ったコースを選択したいと思います。

感動したプログラミング

Ryota Shimizu　清水 諒太

私は情報学コースに進もうと考えています。と言うのは、2年次の前期にプログラミング概論を受講し、ソフトウェアを作る為の基礎を学んだからです。普段はソフトウェアを利用するだけですが、この講義で、ソフトウェアでハードウェアを動かす方法を学んで実際に自分プログラムを組んで動かすことができたのは、とても感動的な体験でした。パソコンは人間の命令通りにしか動かないと言うことも、実感として学ぶことができました。

また、情報の高等学校教諭一種免許状（情報）と司書教諭の資格の取得を考えています。ただ、2年時の後期は少し授業を休んでしまったり、課題の提出も締切間際になったりと、将来教える立場を志す者として、ふさわしくない行動を取ってしまったのは、反省すべきだと思います。今後は、専門科目に加え、教職課程の授業も増えますので、そうしたようなことにならないようにしたいと考えています。

情報学コースの授業はたいへん興味深く、もっともっと学んでいきたいと思っています。今後はウェアラブル端末の普及が予測されますので、AR（Augmented Reality、拡張現実）技術について学べたらと思っています。また、ネットワークやハードウェアなどの最新の技術を学んで、情報化が進む社会をより理解することができるようになりたいですし、2つの資格の取得を目指して勉強し、次の世代の教育を担うことができる力を身につけたいと考えています。

"楽しい"書誌学

Ryuto Umehara　梅原 竜斗

私が３年生になってすすみたいコースは書誌学コースだ。

この２年間いろいろな講義を受けて、私の興味を強く引いたものがある。その１つが書誌学基礎演習という講義だ。この講義では、主に古典籍についての基礎知識を学び、そして演習として実際に調査レポートと呼ばれるものを記入することを行った。講義を受けた当初は、何をどうしたら良いのかもわからず、ただ戸惑うばかりであった。けれど、講義を重ねるにつれ、古典籍に対する知識が少しずつ増えていった。そして、レポートを苦無く記入できるようになった時、私の中で書誌学に対する楽しいという気持ちが芽生えた。

私を書誌学コースに進もうと決意させた講義がもう１つある。それは文字について学んだ書誌学基礎講義だ。私たちが日常的に使用している漢字の起源となる古代の文字（甲骨文字）に触れ、現代とは違う文字の役割を学んだことによって、より文字についての理解を深めたいと思うようになった。

まだ３年次に選択できる講義をすべて把握したわけではないので、こうできたら良いなという希望でしかないが、上で述べたような講義の、さらに専門的な内容を学びたいと考えている。欲を言えば、それだけでなく、古典籍に使われている料紙や文様といった、新たな内容についても学んでみたいと思う。

【 MOS 試験合格体験記 】

目に見えないスキル

Takanobu Kirinoki　桐木 貴演

私は 2013 年 7 月 14 日に、Microsoft office specialist Excel 2010 という資格を取得しました。この資格は、表計算ソフトである Excel の基本的な操作を習得していることを示す、Microsoft 社が認定した資格です。

私の場合、「情報基礎演習 II 」という Excel の操作を学ぶ必修科目を履修していたので、試験の対策は授業と並行して行いました。具体的には、授業で使用するテキストに付属している CD から、模擬試験プログラムを PC にインストールして、毎日模擬試験の問題を解いていました。試験は実技形式で、問題文で指示されている操作を理解し、正確に行うことが求められます。

こうした PC での作業スキルは目に見えないので、それを証明する資格を取得することは重要です。今後は、卒業論文の際の資料作成等に役立てたいと考えています。

インターンシップの報告　平成 25（2013）年度

■ 株式会社アイエスエフネット　黒川萌香

実習中、自分自身で作成したものが実際に社員の方に使用していただけることになり、仕事に対する責任の重みや充実感というものを直接感じ取ることができました。そして、働くことにはあらゆる責任が伴うということを学びました。この夏の実習を通し、多くのことを学び、実習前よりも成長することができました。

■ 株式会社 D- サイト　徳嶺紗瑛

仕事の流れを見学・体験し、実際に業務が行われている職場の雰囲気を味わいました。仕事を通じて、責任の重みを学ぶことができました。また、慣れない環境で働くことにより、自分の長所と短所が浮き彫りになりました。実習中は社員の方から多くのアドバイスを頂き、「働く」というイメージが具体的になりました。

■ 株式会社紀伊國屋書店　土岐飛鳥

実際に企業様にお世話になることで、自分が調べたり、考えていた業界の知識と実際の業界の事情の違いを知ることができました。また、興味のある業界については当然ですが、今まで興味のなかった業界についてのインターンシップを受けるのも、良い経験になるのではないかと考えます。実際に業界について知っていくにつれて、興味がわいてくることもあると思いました。

■ 株式会社日本電気特許技術情報センター　北村光香

特許調査や図書館のレファレンスなどの調査業務に取り組みました。特許という強い権利に触れたことで、専門家としての心構えを学びました。また、調査業務を通じて、どのようなことでも目的意識を持ち、お客様の視点に立って考える大切さを実感しました。多くの苦労がありましたが、自身のスキルアップや精神的に一回り成長し、貴重な経験になりました。

■ JFE テクノサービス株式会社　北岡由依

インターンシップに行って、私は企業図書館の業務への理解を深めることができました。今回私は企業図書館で図書・情報サービス業務の実習を行ってきました。普段の大学の授業は受講人数の関係上座学中心となり、実習を行うことはあまりありませんが、インターンシップは実習中心であるため、より実践的なことを学ぶことができました。

※活動報告の詳細は学科ブログ（http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/）でご覧になれます。

□「ドキュメンテーション」第１７号をお届けします。
□ ドキュメンテーション学科７期生の卒業記念号です。
　卒業生の皆さん、おめでとうございます。
□ 昨年１２月に国際会議、国際インターンシップの様子
　をお伝えします。
□ その他、コース選択に悩む学生の声、資格取得報告等。

ドキュメンテーション　第１７号
平成２６（2014）年３月１４日（金）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
横浜市鶴見区鶴見 2-1-3（〒 230-8501）
☎ 045(581)1001　発行責任者：原田 智子
学科ホームページ：http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/